

平成25年度「新入生の生活に関する調査」

第4回 「どのような新入生と保護者が、奨学金を認知・希望しているか」

前回は「大学卒業後の進路展望と保護者の関与」についてご報告いたしました。その中で、子どもの就職や将来の進路に対する保護者の関与の高さが示され、新入生だけでなく保護者の存在も視野に入れた支援が必要なることが明らかとなりました。そこで、今回は新入生と保護者の奨学金の認知や希望についてご報告したいと思います。

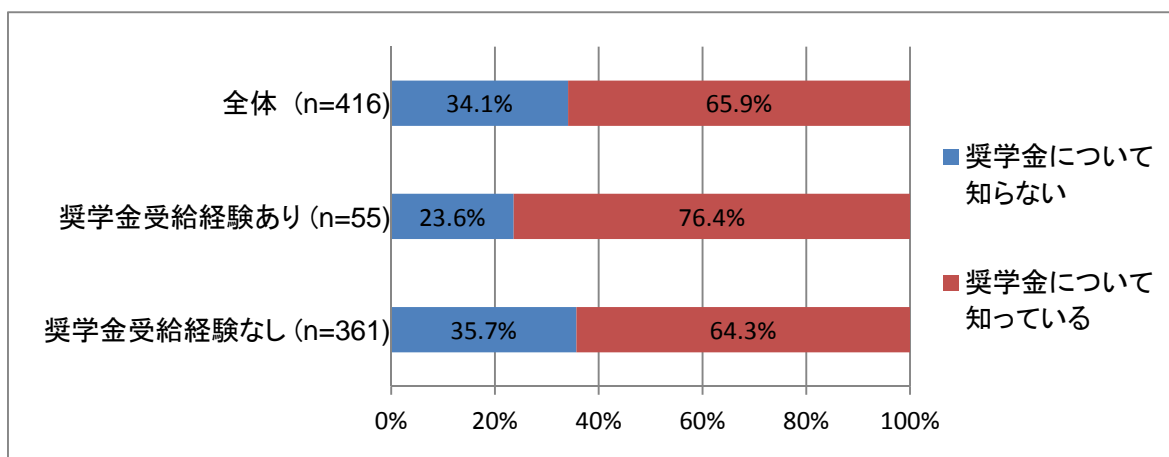
1. 新入生の結果

(1) 過去に奨学金の受給経験がある者ほど、大学奨学金の認知度が高い

まず新入生の奨学金の認知度を調べました。また、過去に奨学金を受給した経験がある者となない者として、大学奨学金の認知度が異なるかを調べました。

その結果、全体では65.9%の新入生が大学奨学金について認知していることがわかりました。また、これまでに奨学金を受給した経験がある場合は、奨学金の認知度が高く(76.4%)、これまでに奨学金を受給した経験のない場合は、奨学金の認知度が低い(64.3%)ことがわかりました。これは昨年度と同様の結果であり、高校までの受給経験が、大学入学後の奨学金の認知にも関係しているものと考えられます。また昨年度と比べると高校までの奨学金受給経験がある者が増えたが、受給経験がある者でも大学奨学金について知らない者の割合が増えている傾向(昨年度：6.45%,今年度：23.6%)にあります。

奨学金受給経験と大学奨学金の認知 (報告書 p.39)

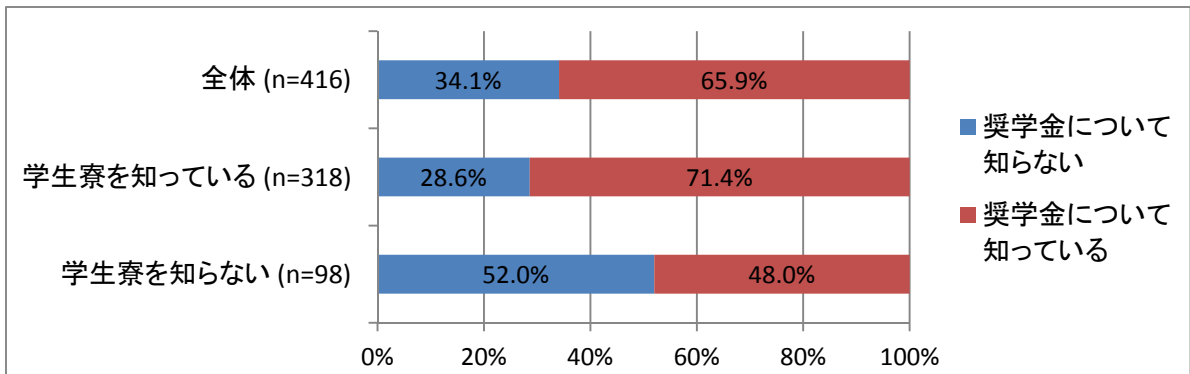


(2) 学生寮を知っている者ほど、奨学金の認知度が高い

次に、学生寮の認知と奨学金の認知に、関連があるかを調べました。

その結果、学生寮について認知している場合は、奨学金の認知度が高く、学生寮について認知していない場合は、奨学金の認知度が低いことがわかりました。これは昨年度と同様の結果であり、学生寮という学生生活部門の支援に関心がある者は、奨学金の認知度も高いことが示されました。

学生寮の認知と奨学金の認知（報告書 p.41）



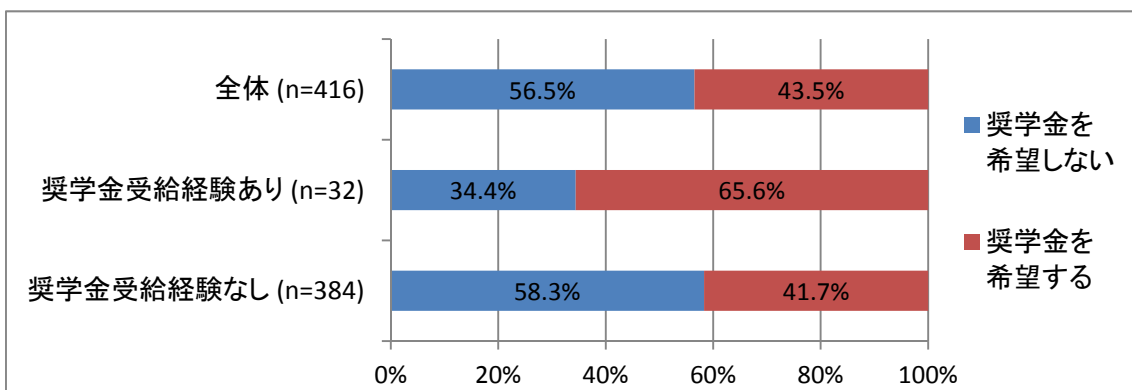
2. 保護者の結果

(1) 過去に奨学金受給経験がある者ほど、大学奨学金を希望する割合が高い

次に、保護者の奨学金の希望の有無を調べました。また、過去に奨学金を受給した経験がある者となない者として、大学奨学金の希望の有無に違いがあるかを調べました。

その結果、全体では、43.5%の保護者が大学奨学金を希望していることがわかりました。また、これまでに奨学金を受給した経験がある場合は、奨学金を希望する割合が高く、これまでに奨学金を受給した経験がない場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかりました。これは昨年度と同様の結果ではありますが、これまでに奨学金を受給した経験のある者で、大学奨学金を希望する者の割合は、昨年度が80.6%だったのに対して、今年度は65.6%と少なくなっています。

奨学金受給経験と奨学金の希望（報告書 p.43）

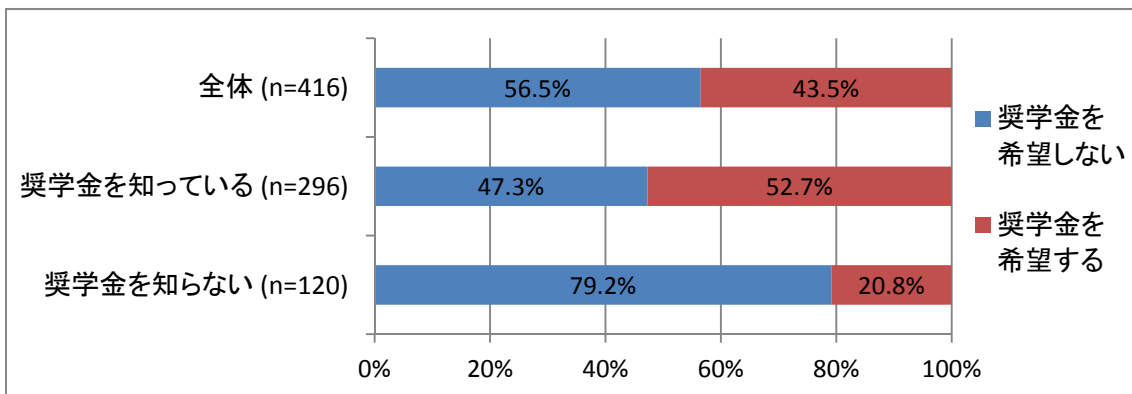


(2) 奨学金について認知している者ほど、奨学金を希望する割合が高い

奨学金の認知と奨学金の希望の有無に関連があるかを調べました。

その結果、奨学金について認知している場合は、奨学金を希望する割合が高く、奨学金について認知していない場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかりました。これは昨年度と同様の結果であります、「奨学金について認知していないが、奨学金を希望する」という割合が、昨年度 12.7%だったのに対して、今年度は 20.8%であるため、本学での奨学金についての情報をより周知する必要があると考えられます。

奨学金の認知と希望（報告書 p.43）

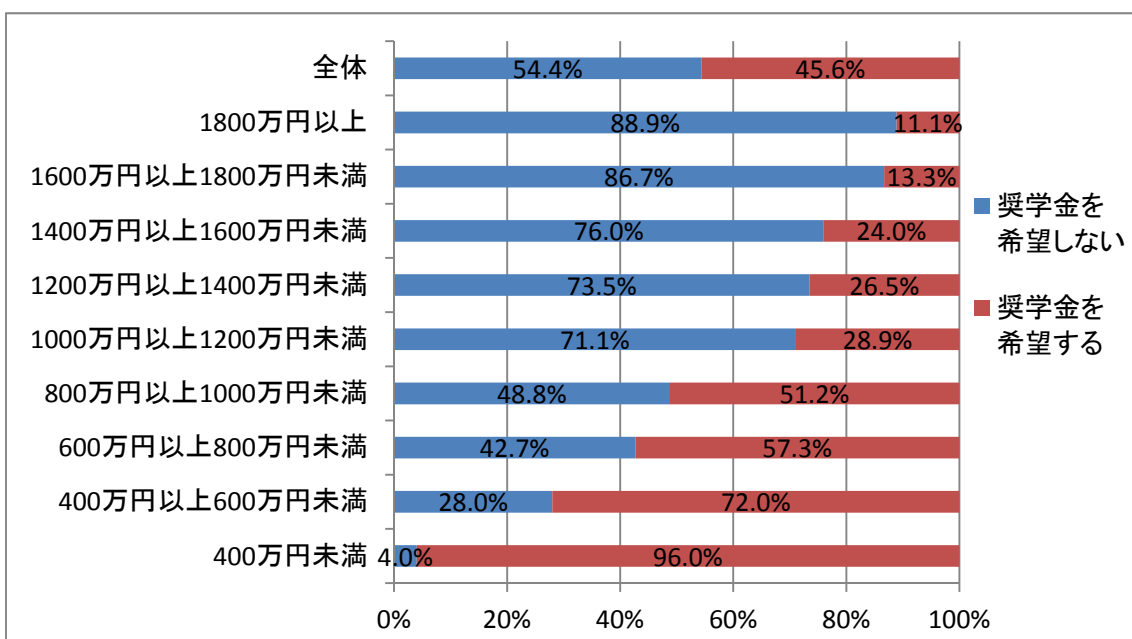


(3) 世帯年収が少ないほど、奨学金を希望する割合が高い

世帯年収と奨学金の希望の有無に関連があるかを調べました。

その結果、世帯年収が少ない場合は、奨学金を希望する割合が高く、世帯年収が多い場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかりました。これは昨年度と同様の結果でした。

世帯年収と奨学金の希望（報告書 p.44）

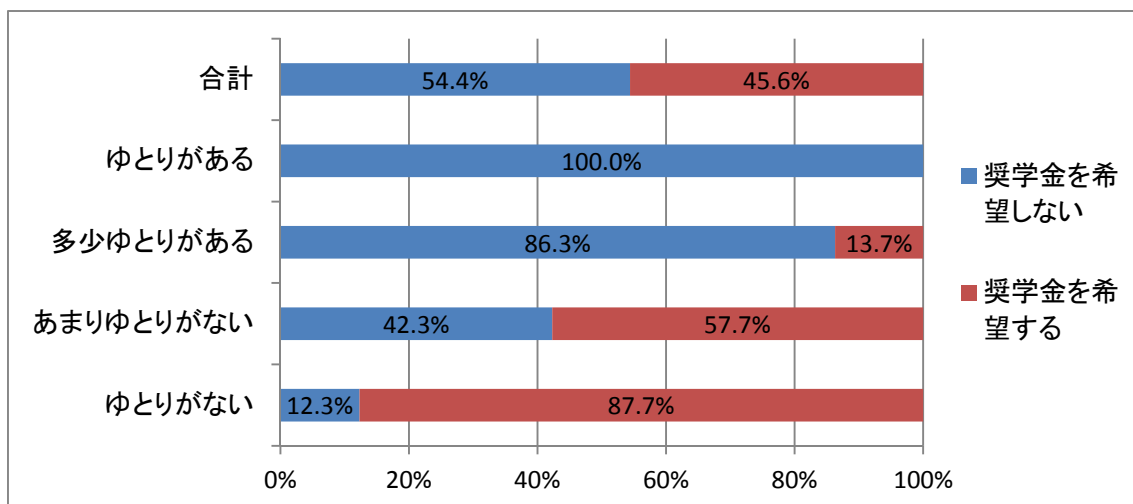


(4) 入学後の暮らし向きに余裕がないほど、奨学金を希望する割合が高い

入学後の暮らし向きと奨学金の希望の有無に関連があるかを調べました。

その結果、入学後の暮らし向きにゆとりがないと感じている場合は、奨学金を希望する割合が高く、ゆとりがあると感じている場合は、奨学金を希望する割合が低いことがわかりました。これは昨年度と同様の結果でした。

入学後の暮らし向きと奨学金の希望（報告書 p.47）



次回は、
「どのような新入生と保護者が、学生寮
を認知・希望しているか」についてご報
告します。



「学生・キャリア支援センター *Research Report*」としてその一部を紹介いたします報告書は、学生・キャリア支援チーム（内線2646、gakusei@cc.ocha.ac.jp）で冊子を手入手できるほか、TeaPotからもPDF形式でダウンロードいただけます。

（<http://teapot.lib.ocha.ac.jp/ocha/handle/10083/53912>）